



見附市立見附小学校 学校だより

「自ら学び 進んで鍛え 共に伸びる見小の子」

# みしよ

No. 339

令和5年8月25日（金）発行

〒954-0052

見附市学校町1丁目3番89号

Tel 0258 (62) 0141

<http://www.mitsuke-ngt.ed.jp/~misho/>

過去の便り  
もご覧にな  
れます。

小学6年生の「ウタ」は父の「さくちゃん」と二人暮らし。ある夜、ウタはさくちゃんに愚痴を言う。

「隣の席の転校生がイライラ、トゲトゲしていて、つかれる。まるでながーいトゲを持つ、ヤマアラシみたいだ。」

それを聞いたさくちゃんは興味をもち、毎週金曜日になると「どうだった、今週のヤマアラシは？」とウタに聞くようになった。ウタは次第にこのトゲトゲして嫌われていたヤマアラシの内面が知りたくなり、親しくなっていくが、その様子を見た周囲の友達からは無視されるようになる。やがて、学校にも行けなくなったウタだが、ある日の学級会で…。

蓼内明子 著「金曜日のヤマアラシ」

## トラブルは成長チャンス

校長 後藤 正美

これは、今年度の新潟県課題図書（高学年）の「金曜日のヤマアラシ」のあらすじです。主人公のウタは周囲の偏見に悩みながらも、自分の言葉で本心を伝えようと、友達に対して真正面から接します。子供同士がきちんと向き合い、意見を言い合うことで初めて互いへの共感が生まれていきます。子供たちの真の成長に、嬉しくなる物語なのです。

また、別の課題図書「ちいさな宇宙の扉のまえで」にも、5人の6年生が登場します。性格や友達関係、家庭環境、習い事など、それぞれの悩みを抱えている子供たちが、様々なトラブルや経験を通して、友達の言動の背景や本当の姿を理解していく話です。

この2冊には共通のを感じました。それは、子供同士が思いを伝え合う場面において、親も教師も出てこないことです。大人が、間に入って解決することはありません。

子供たちの10年後・20年後には、これまで以上に「正解のない時代」を生きていくことになると言われます。困ったときには周囲が考えてくれる、大人が正解をジャッジしてくれる、これでは「生き抜く力」は育たず、結局、苦しむのは将来の子供たちです。昨年の学校だよりでも、相田みつをさんの「ラクしてカッコよければしあわせかー負ける練習一」を紹介しました。困難な場面やトラブルが起きたときこそ、心の成長チャンスにつなげたいものです。

子供が困っていると、大人は「こうするといいよ」とついつい教えてしまいがちです。そうした場面では、「あなたはどう思うの？」と、自分で考えること促し、そのうえで大人に協力できることがあるかを聞くことも、時には大切です。そうやって自ら解決した体験を積むことが、生き抜く力の礎になると思うのです。

2学期は、「苦楽しい」体験を通し、「へこたれない力」を身に付ける絶好の機会です。子供たちが悩んでいるときこそ、慌てて成長の芽を摘まず、未来への「心の根っこ」をつくるためにどうしたらよいのか、共に考えて参りましょう。